

古里 上越に報恩感謝

富士市 佐野一茂（脇野田出身）

「Jネットの皆様お元気ですか？久しぶりに手にした一冊の本「人生を楽しむ知的時間術」を開くと、目に飛び込んだ文字を見て、まったく同感でしたのでご紹介します。

そこには、次のような段落があり、ほんとに高田で生まれ育ったことに「報恩感謝」の気持ちで一杯になりました。

「東京の風呂屋の八割から九割は新潟県人だ。銭湯の勤めは、生やさしい事ではない。客が帰ってから、夜遅くまで浴槽を洗う。冬の寒い夜でも、毎晩冷たい水で洗う。正月でも休み無しで、普通の人は辛抱できない。だんだんと自然淘汰されて、残った多くが新潟県人である。長くやっていけば番頭になり、主人が亡くなればふやけた跡取り息子では見込みが無く、家業を番頭に譲るので、結果は自然と新潟県人が多くなる。」

ほんとに、その通りだと、故里、上越に生まれ育てていただいた事に感謝しています。吹雪や鉛色の重い空の厳しい冬、田植え、田の草取り、稲刈りや雑木林での刈り乾しの手伝いの仕事などで、忍耐力を養い、心身ともに鍛えてもらった故郷に感謝の日々です。

上越市は環境ISOでも全国で初めて認証取得し、妙高登山、笹ヶ峰牧場でのキャンプなど、沢山の思い出をつくってくれた、故里の自然、先生、同僚、そして多くの先輩の方々にも「報恩感謝」。故里地元で、上越の文化を営々と守り、発展させて下さる方々に感謝申し上げます。

お蔭様で今年五月連休には、孫も上越を故里の一つにできるように、写真のようにならば脇野田の実家で農業体験をさせる事ができました。

Jネットのおかげで、故里の自然や人柄の恵みに感謝。

富士山の麓に住んでから早くも三十七年を数えます。写真や本でしか見たことのなかった富士山を、毎日仰ぎ見る幸せを改めて噛み締めております。

これからも故里、Jネットの便りを見ながら、「故郷は遠きにありて思うもの」を何時までも大切にしてゆきたいと思っています。

